

2022 年 2 月

特別支援教育に関わる皆様

日本教育情報学会特別支援教育 AT 研究会

会長 金森 克浩

(帝京大学 教授)

特別支援教育 AT 研究会 2022 の開催について(第 2 次案内)

特別支援教育に関心のある学生・教員等を対象に、障害や特性に応じた学習・生活の質を高めるための支援技術(AT)や ICT を活用した教育実践を交流する研究会を、各地の大学研究室や研究会と共催にて開催します。

この研究会の特別支援教育を学ぶ学生も教員も共に学びを交流するという趣旨をご理解いただき、共催研究室を中心に発表件数が多くなりました。ありがとうございます。そこで、今回は学生や教員という区分を超え、4 つの分科会に分かれて研究発表と意見交換を行い、最後に全体で緊急企画シンポジウムを行いたいと思います。

年度末で公私ともお忙しいことと思いますが、COVID-19 感染症対策を講じながら、春の京都・全国で、教員等も学生も共に学びたいと思います。

共催・後援(予定含む)

京都ノートルダム女子大学特別支援教育 AT 研究会(太田研究室), 浜松学院大学大森研究室, 広島大学氏間研究室, 兵庫教育大学小川研究室, 関西学院大学丹羽研究室, 金沢星稜大学新谷研究室, 神戸親和女子大学武富研究室, 皇學館大学教育学会特別支援教育 AT 研究会(大杉研究室), 奈良学園大学中島研究室, ノートルダム清心女子大学青山研究室, 大阪人間科学大学中島研究室, 島根県立大学特別支援教育学研究室, 島根大学伊藤研究室, 帝京大学金森研究室, 帝京大学大学院教職研究科爲川研究室, 富山大学水内研究室

AT-Okinawa, チャレンジキッズ研究会, DonTAC, 九州 e-AT 研究会, マジカルトイボックス, なんとカンファレンス, (一社) 日本支援技術協会, 大阪支援教育コンピュータ研究会, NPO 法人支援機器普及促進協会, 東海特別支援教育カンファレンス

日時 2022 年 3 月 20 日(日) 9 時半~15 時半(開始時間を早めました)

会場 キャンパスプラザ京都 第 3 講義室

京都駅下車すぐ(〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る)

Zoom 会議室(参加確定者に開催直前にメール連絡します)

会場参加定員 60 名 遠隔参加定員 80 名(埋まり次第締め切ります)



主な発表タイトル(予定)

- ・ インクルーシブな保育～保育の質向上に向けた環境づくり
- ・ すべての子どもの学びの充実を保障する令和の日本型教育とインクルーシブ教育の関連について
 - ①～一体的な充実に向けた個に応じた学び～
 - ②～一体的な充実に向けた多様な他者との協働的な学び～
- ・ 発達障害児のきょうだいに対する支援について
- ・ 読み書きを困難とすることもへの指導・支援に関する一考察 実態把握から指導・支援、評価に何が必要か
- ・ micro:bit を用いた小学校プログラミング授業実践
- ・ 肢体不自由児の視線入力教材の開発と実践—Scratch による教材作成着目して—
- ・ 障害者スポーツ(野球)を楽しむための工夫—運動部活経験者と未経験者の指導観の違いについて—
- ・ 障がいのある児童の就労を見据えたキャリア教育について—教育学部学生に対するアルバイト経験との比較—
- ・ 遠隔支援「3D プリンターで作って遊ぼう・プログラミングしよう」
- ・ 学習段階に応じた視線入力装置の活用について
- ・ 重度障害児向けインクルーシブゲームの開発と活用効果
- ・ 病弱児に対する教育的支援等の国際比較による現状と課題
- ・ 発達障害のある児童生徒の指導・支援についての一考察
- ・ 視覚障害者を対象としたジェスチャー練習アプリの開発と評価
- ・ 小学1年生のプログラミング的思考の変化についての一考察—Viscuit 教室の実践を通して—
- ・ 韓国の特殊教育デジタル教科書—「進路と職業」の職業基礎能力について—
- ・ 初学者のためのプログラミング教材の検討—Viscuit に焦点を当てて—
- ・ 吃音のある子どもへの配慮 通級指導教室との連携に着目して
- ・ 小学校における障害理解教育の課題—障害理解教育を受けた経験と教育実習等での気づき—
- ・ 障害者用に改造された自動車が生活に及ぼす影響について
- ・ 知的障害児・者の地域スポーツ参加を阻害する要因について～柔道指導者におけるインタビューから～
- ・ 障がい者の賃金向上につなげる商品開発の取り組み～松江市土曜つながりナイトの事例から～
- ・ ご当地スポーツの開発を通じた障がい児参加の取り組み
- ・ PECS を用いた指導実践の効果—要求行動の変化について—
- ・ 小学校における英語のユニバーサルデザイン—授業—shimafu シートによる分析を通して—
- ・ 肢体不自由児の視線入力装置活用によるコミュニケーション実践
- ・ 児童と共につくる授業のユニバーサルデザイン—米国 CAST の Universal Design for Learning をてがかりに—
- ・ 知的障害者のマスメディアに対する理解
- ・ ワーキングメモリに障害がある生徒に配慮した数学科デジタル教科書におけるアクセシビリティ機能の検討
- ・ 肢体不自由者のオシャレに対する潜在的ニーズに基づいたファッションデザイン開発工程モデルの構築
- ・ ワークショップ形式の支援機器活用研修の試み
- ・ 学級通信が教師、児童・保護者に与える影響
- ・ 知的障害児に関する ICT 機器活用の有効性
- ・ 知的障害児の運動感覚の獲得と向上のための指導—認知作業トレーニング COGOT を用いて—
- ・ トイドローンを用いた小学生を対象としたプログラミング教育の実践
- ・ 学校における「人」台端末時代の ICT を活用した教育の動向
- ・ Viscuitを用いた小学校プログラミング教育の実践
- ・ 視線入力を用いた児童生徒に合わせた教材の学習効果について
- ・ 低学年における小学校プログラミング教育—バスケットを用いた実践を通して—
- ・ 小学校外国語教育におけるサイト・ワード指導～「書くこと」への効果について～



- ・ て-当事者へのインタビューを通して-
- ・ デジタル・リーディングにおけるスクロール方略と拡大率が読速度に与える影響
- ・ GIGA スクール時代のスイッチ教材 ～重度重複障がいのある児童生徒にとっての一人一台端末の活用～
- ・ 知的障害児に対するASMR動画を活用した国語科の指導
- ・ 特別な教育的ニーズのある子供の教育を担う教員支援システムの開発
- ・ オンデマンド講義で対面講義の品質を担保できるか
- ・ 発達障害児に対するICT導入の事前検討の促進を志向したアプリ検索システムの開発
- ・ 大学講義のオンラインコンテンツ化と、その効果(仮)
- ・ 重度肢体不自由児へのコミュニケーション支援
- ・ 以上、研究発表は4つの分科会(いずれもネットで参加可能)で実施します。
- ・ 14:30~15:30は参加者全員で、昨今の状況やオンライン授業不正事案等を踏まえ、**緊急企画「遠隔講義のズルはどこまで許され、どこまでバレているのか」**というシンポジウムを実施します。

参加申し込みについて

研究会の詳細(原稿執筆要項等)、参加申し込み、お問い合わせは、“特別支援教育 AT 研究会 2022”で検索、もしくは右下のQRコードからお願いします。

新型コロナウイルス感染症対策について

感染予防のため、Zoomでの遠隔会場と京都会場参加のハイブリッド型とし、会場は人数制限を行います。

会場のキャンパスプラザ京都第3講義室は定員170名ですが、参加者定員は60名として、三密を避けて実施する予定です。

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、キャンパスプラザ京都を利用される際は、感染予防のため下記の通り各自万全の対策をお願いします。なお、1週間以内に(37.5度以上又は平熱比1度超過)の発熱がみられたり、咳・頭痛等の風邪症状がみられたりする場合は、必要な対応の上、対面参加の取りやめをお願いします。

<https://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto>

<https://www.consortium.or.jp/cp-kyoto/39252>

